

令和4年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和4年8月9日(火) 14時00分～16時10分
- 開催場所 平塚市美術館 ミュージアムホール
- 出席者 委員 靄山昌夫、丹野栄一、高橋浩也、土屋浩明、鈴木憲子、保坂米蔵（敬称略）
事務局 草薙特別館長、戸塚館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、
安部学芸員、桑名学芸員、高倉管理担当長
- 傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 「平塚市制90周年記念工藤麻紀子展 花が咲いて 存在に気が付く みたいな」、
「気になる！ 大好き！ これなあに？ こどもたちのセレクション展」観覧
- 5 議題
 - (1) 令和3年度第2回協議会（書面開催）に寄せられた御意見について
 - (2) 令和4年度の事業報告及び事業予定について
 - 展覧会
 - 教育普及
 - その他の事業
 - 施設利用者等の統計
 - (3) その他
- 6 閉会

■議題及び質疑

吉村会長欠席のため、平塚市美術館の設置及び管理等に関する条例施行規則第24条第4項に基づき、靄山昌夫副会長に進行をお願いした。

- (1) 令和3年度第2回協議会（書面開催）に寄せられた御意見について

「資料2」のとおり委員から寄せられた御意見のうち、事務局から説明の必要なものについて説明した。（説明時、「資料3」を提示）

（質疑）

委員 展覧会の企画立案について、市民の意見を取り入れたりしたことはあるか。

事務局 展覧会開催時に実施したアンケートで寄せられた御意見の中で状況に応じて取り入れられるものについては取り入れて実施している。

委員 予算の数字を見させていただいた中で、物品修繕料というのは、何に使用するのか。作品の修復等に使用するものなのか。

事務局 資料に記載の物品修繕料は、施設中の物品の修繕に使用する予算であり、収蔵作品の修復等が必要になった場合には、委託料を使用して発注する。

委員 展覧会で作品を輸送するときには、どのような予算を使用するのか。

事務局 イベント委託料の中から輸送に関する費用を支出する。

委員 無料で作品を観覧できるロビー展を開催するようだが、企画展等のように受付がないロビー展の観覧者数のカウントは、どのように工夫しているのか。

事務局 美術館に入ったところにある受付の職員がロビー展のフロアへ向かうお客様の数をカウントしており、日毎の観覧者数として把握している。

(2) 令和4年度の事業報告及び事業予定について

資料4に基づき、「展覧会」、「教育普及」、「その他の事業」、「施設利用者等の統計」の項目ごとにこれまでの事業実績及び今後の事業予定等について説明した。

(質疑)

委員 「けずる絵、ひっかく絵」展の際、美術館の廊下の壁にワークショップで子どもたちが作成した絵が飾ってあった。あのようなイベントに参加した参加者が作成した作品を大いに飾ってほしいと思った。

「気になる！ 大好き！ これなあに？ こどもたちのセレクション展」は大変素晴らしい企画だと思うが、子どもたちの反応の中で「怖い」という記載が多くあった。「怖い」と思わせるような絵ではなく、楽しく夢を持たせるようなものを飾った方がよいのではないか。

「気になる！ 大好き！ これなあに？ こどもたちのセレクション展」の出口付近に市制90周年に関する展示があり、モニターで関連映像を上映している。自分が見たときには音が大きく、観覧の妨げになると感じた。

「リアル(写実)のゆくえ展」で秋山泉の絵が飾ってあったが、鉛筆1本で光のゆらぎやリアルさを出せるあのような絵を是非子どもたちに見せられるよう、秋山泉の展覧会を開催してはどうか。

美術に関心のある市議会議員に美術館の事業を理解いただき、美術館の事業に予算がつくように働きかけてはどうか。

詩と絵をコラボさせたような展示会があってもよいと思った。

今日、学芸員の説明を聞いていると大変わかりやすい説明をしていただける。学芸員が持っている深い知識が伝わってくるよう工夫してほしい。

事務局 展覧会について、大変貴重な御意見をいただいた。御意見を参考として、今後も、皆様が作品を十分に鑑賞できるよう今後も工夫をしていきたい。

お子さんの「怖い」という反応については、展示室が暗かったり、作品の色や大きさに対してお子さんの目線から見ると「怖い」と感じてしまう部分があると思う。また、「作品は時代の鏡」とも言われ、描かれた時代背景が怖いと作品にもそれが反映して、お子さんは敏感に感じ取ってしまう。そういったお子さんの素直な感情が現れ

るような作品を展示してあると御理解いただきたい。

市制90周年の展示については、中央図書館と博物館、美術館の3館がコラボした「3館コラボレーション事業」として実施しているもので、それぞれの施設で90年前の資料等を展示するとともに、関連映像を上映している。音量を調節しているが、観覧の妨げにならないよう工夫したい。

予算獲得については、しっかりと必要経費を精査し計上したうえで、市議会の本会議や委員会での審議を通じて、美術館の事業を御理解いただけるようしっかりと説明してまいりたい。

委員 「怖い」等、お子さんが示した反応の先のことが表現されていなかったのが残念だった。もうちょっと突っ込んで何が怖いのか、何がキラキラしているのかというような「何で、そう感じたのか」という説明があると良いと感じた。

キャプションについて、見づらい部分があり、監視の人に断ってスマホで写真を撮って見たことがあった。(外国へ行ったときに、キャプションをスマホに撮ってみせてくれたところがある。)多くの人が見やすいよう工夫してほしい。

事務局 お子さんの反応については、今後、何らかの形で活かせるよう工夫していきたい。

キャプションには定型の大きさがあり、その中にいろいろな情報を詰め込んでいくと文字が小さくなってしまふことがある。キャプションの定型の大きさを変えたりとか、キャプションにスポットライトを当てるとか、みやすくわかりやすくなるよう工夫をしていきたい。

委員 子どもたちの反応を捉えた展示会の開催に感謝します。怖い絵とか、きれいな絵とか、子どもたちが思いをもって作品と出会い鑑賞できることは、とても大切なことだと思う。コロナ禍にあって、本物と出会って何かを感じてもらう機会は大変貴重だと思う。平塚には美術館があり自慢できる場所になってもらいたい。絵を描いたり作品を作る子どもたちがたくさんいる。そんなこともたちにとって、美術館が甲子園みたいな存在になるといいなと思って展覧会に足を運ばせてもらっている。また、「気になる！ 大好き！ これなあに？ こどもたちのセレクション展」お子さんが気に入った作品にシールを貼るコーナーが設けられており、こういうことを通じて子どもたちの絵を見る感覚を養ってほしいと思う。今後も、子どもたちを対象とした企画を期待したい。

今年は幼小図工作品展が計画されており、市民アートギャラリーで開催できることを楽しみにしている。

事務局 「気になる！ 大好き！ これなあに？ こどもたちのセレクション展」ではお子さん連れの御家族が多くみられ、同時に開催している別の展覧会よりも観覧者数が多い日もあるなど、多くの反応が感じ取れている。今後も、このような反応を大切にしていきたいと思う。

委員 写真を撮ってもいいものといけなものの違いは何か。また、キャプションにはいろいろな情報があると大変分かりやすいと思う。

また、以前のようなきれいに印刷された展覧会毎のチケットであれば、展覧会を見に来た記念にとっておけるのだが、現在は券売機で発行されるものとなり、ちょっと残念だ。展覧会を見に来た記念となるようなチケットに戻らないか。

事務局 写真撮影可とした方が、SNS等で情報が広がるなどの効果も期待できるが、作品には著作権があり、一様に撮影可とできないこと、また、撮影する方によって他のお客様の観覧の妨げとなってしまう場合があり、苦慮している。できれば撮影可とできるように努力していきたい。

キャプションについては、様々な情報を提供する必要があると感じている。また、読みやすいキャプションとなるよう努めたい。

チケットについては、記念にとっておきたいとお気持ちは大変ありがたいものだが、現在のチケットは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、人の手を介さない方法を考え券売機を導入したもの。コロナ禍が去っても元に戻ることはならないと思う。展覧会毎に作成・配布しているチラシを記念として保存いただけるよう御理解願いたい。

委員 この美術館はとても立派で広く空いている壁も多い。プロジェクトマッピングをやるとか、学芸員が「これは」と思う若手の画家に大きな絵を描いてもらったかどうか。20年後、30年後大作家となって、それを目当てに来るお客さんも増えるのではないか。

事務局 プロジェクトマッピングは以前実施したことがある。プロジェクトマッピングに限らず、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、お客様に楽しんでいただけるイベント等を今後も企画してまいりたい。

この美術館は、特定の作家の作品を飾る他の美術館とは違い、絵画や彫刻や前衛的なもの等様々な展覧会を開催するように作られており、建物自体に個性を持たせず、多様な使い方ができる施設であると考えている。

委員 教育普及について、養護学校の生徒を受け入れ、ワークショップを開催した実績があるようだが、このような経験は平塚市美術館にとって有用なものであると思う。今後も、ノウハウとして蓄積できるよう期待する。

(3) その他

特になし

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

次回は令和5年3月に開催予定。

以上